

# 顔

風間深志さんの冒険にサポート  
ドクターとして同行した

渡辺 義孝さん



わたなべ・よしゆきさん 整形外科  
忍野村出身。昭  
和町清水新居に妻と  
4歳の長男、2歳の  
長女の4人暮らし。  
34歳。

## 患者の気持ちに寄り添う

山梨市出身の冒険家・風間深志さん(58)が障害者と一緒に挑戦するオーストラリア大陸自転車横断に、サポートドクターとして同行。「障害者と走るといふ貴重な体験ができた。参加させてくれた病院

の1環。オートバイレース中の事故で左足を負傷した風間さん、右足を失った男性、左片不全まひの男性、左ひざが人工関節の女性をサポートしながら、全行程約5千キロのうち、約1400キロを同行し、16日間かけて走破した。行動をとるにもする中で、メ

善の治療を行って、なるべく障害を残さず、本来の機能に近づけることの大切さを実感した」という。子どものころから大のスポーツ好き。富士河口湖高時代はボート部に所属し、インタールハイで優勝。大学から始めたアイスホッケーでは国体に

出場し、現在も社会人チーム甲府チエスカでプレーする。トレーニングも兼ねて、通勤はもっぱら自転車だ。勤務する国立病院機構甲府病院スポーツ膝疾患治療センターは、スポーツで靭帯や関節を痛めた人が多く通う。患者はアスリートとしての現役復帰や障害予防のため、靭帯再建の手術を受け、長期間のリハビリに臨む。「スポーツ経験があるからこそ、けがでつらい患者の気持ちに寄り添える。けがは強い意志とリハビリで克服できると患者に伝えていきたい」

〈渡辺 真紗美〉

や家族のおかげと話す。大陸横断企画は、骨や関節など運動に必要な器官の重要性を訴える世界運動器の10年

ンバーがわずかな段差でつまずいて、バランスを崩してしまふ場面を何度も目の当たりにした。普段あまり触れることのない「患者の目線」を体感した一方で、メンバールのリハビリに対する知識の豊富さや熱心さに驚かされた。「最

出場で、現在も社会人チーム甲府チエスカでプレーする。トレーニングも兼ねて、通勤はもっぱら自転車だ。勤務する国立病院機構甲府病院スポーツ膝疾患治療センターは、